令 和 ５ 年 度　　学 校 総 合 評 価

６　今年度の重点目標に対する総合評価

本校の教育目標「自立と社会参加に必要な力を身に付け、社会の一員として健康で心豊かに生きる人を育てる」の達成を目指すとともに、本校の現状と課題を踏まえ、以下の３項目を重点課題として取り組みました。それぞれ設定した目標について、ほぼ達成することができました。

⑴　自立と社会参加を目指した学習単元の充実

高等部年間指導計画（各教科等）に合わせて、教材・教具（電子媒体）を各教科毎のフォルダ内に蓄積し、生徒の実態に合わせて誰でも取り扱えるように整理した。また、事例をとおして、教材の活用や機能について意見交換した。教材の系統性を含めて単元における使用場面や実態に応じた教材の在り方について話し合い、授業に取り入れることで、意欲的に授業に参加する姿が見られ、生徒の学びを深めることができ、学習単元の充実を図ることができた。

⑵ 主体的・対話的で深い学びの視点からの教科における授業づくりについて

昨年度の授業実践からの知見（授業作りのポイント、学びの姿図）をもとに研究授業に取り組んだ。特に、授業中の教師の発問に対する児童生徒の発言やつぶやき、行動、表情などを細かく分析すると共に学習している内容が児童生徒の生活に生かせるという視点で学習内容や支援の見直しを行い、児童生徒が主体的に深く学べる授業改善を行うことができた。

⑶　児童生徒、保護者のニーズに応じたＰＴＡ活動の充実

小学部（エアロビクス）、中学部（リズムダンス）、高等部（サッカー）のそれぞれで、親子活動に取り組んだ。子供も親も周囲に気兼ねなく楽しく参加できるように、子供や保護者の意見を丁寧に聞き取り、保護者担当で取りまとめ、その意見を反映した実践を行った。その結果、全ての学部の親子活動参加者からで80％以上の肯定的な評価を得た。

７　次年度へ向けての課題と方策

⑴　教科間の連携や学年間の単元の系統性についてさらに検証を進め、より生徒の実態にあった細やかな教材や見本の提示の仕方の工夫や改善をしていくことが必要。また、卒業後の進路先での仕事や生活を見据えた、学習単元や活動内容の充実を図っていきたい。

⑵　教員個々の授業力の向上は、児童生徒の興味関心や知識をさらに深め、日常生活に生かせる力につながっている。常に、児童生徒の確かな学びとなる授業づくりについてアップデートすると共に、教員同士が情報を共有したり相談したりして、各教員の資質向上が日常に図られるような雰囲気の醸成と体制作りをしっかりと行っていきたい。

⑶　ＰＴＡ活動に参加する児童生徒・保護者・教職員一人一人がやりがいと楽しさを感じられるように、それぞれのニーズを大切にした活動を工夫すると共に、ＰＴＡ活動について校内外を問わずより多くの人に知ってもらうための活動に発展させていきたい。本校の取組を地域に知らせていく発信源となれるよう学校と保護者が継続的に連携していきたい。

８　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

<table>
<tr><td colspan="4">令和５年度　となみ総合支援学校アクションプラン　－１－＜高等部＞</td></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="3">学習活動</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="3">自立と社会参加を目指した学習単元の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="3">高等部では、学習内容や生徒の実態に合わせて、それぞれの教員が工夫して教材を作成し、授業で使用している。教材を共有し学習単元や活動内容に合わせてお互いに活用しているところではあるが、一人一人の実態に応じるため、教材の種類や内容をより充実していくことが課題となっている。
今年度は、これまで作成・蓄積してきた教材を、年間学習指導計画に合わせて、系統立てて３年間の学びが継続できるように教材の充実を図るとともに、卒業後の進路先を見据えた学習単元の内容の整理・充実を図りたい。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td colspan="3">年間学習指導計画（学習単元）の充実や生徒の実態に合わせた共有教材の授業での活用</td></tr>
<tr><td colspan="2">教材の活用　一人１ケース以上</td><td>教材活用及び単元の充実のための会議６回</td></tr>
<tr><td rowspan="2">方　　策</td><td>５月</td><td colspan="2">年間学習指導計画に合わせて高等部教材フォルダ構成を整える。（教科担当）</td></tr>
<tr><td>年間</td><td colspan="2">①現在高等部で保有している教材・教具や各自が作成した教材（指導案を含む）を使って授業を行い、教材フォルダを整理しながら加えていく。（プリント等はデータ、具体物は画像で保存）
②教材を使って取り組んだ生徒の様子の情報交換をする。
③教材の活用方法及び各単元の押さえるべき学習目標や内容について検討を行う。
④③に基づいて教材及び単元の内容に工夫を加え①～③を行う。
※②、③について、各学年で２回以上会議をもつ。（必要に応じて教科等グループの担当者も会議に加わる）</td></tr>
<tr><td>具体的な取組状況</td><td colspan="3">＜５月～＞年間指導計画に合わせて高等部教材フォルダの構成を整え、授業担当者が保有している教材・教具や各自が作成した教材を随時そのフォルダに保存し、教材を蓄積していった。
＜８月＞各学年で、教材の活用について一人１ケース発表し、学習目標や内容、教材の活用法や取り組んだ生徒の様子などの情報・意見交換や検討を行った。
＜８月～１０月＞
・１学年は数学を中心に、生活に生かすための学習内容や教材の活用法について検討を行った。
・２、３学年は美術で、これまで作成・蓄積した教材に基づいて学習指導要領をもとに１～３学年の系統立てた題材設定、自ら主題を決め製作するための目標の検討、プリント教材の見直し、大型テレビやタブレット端末を活用した映像資料の活用の仕方や困っている生徒への言葉掛けの工夫、立体の作品鑑賞の仕方について生徒の実態をもとに改善を行った。</td></tr>
<tr><td>評　　価</td><td>A</td><td colspan="2">・ケース検討や教材研究により、生徒の実態にあった教材（ルビ付き、写真付き説明、答えを選択肢から選ぶ等）が増え、きめ細かく活用がなされた。
・自立と社会参加の視点では、数学で学んだ倍数の知識を物を数える場面に応用したり、美術で学んだスケッチの仕方やタブレットの活用を身に付け、制作したいイメージに合うようにタブレットを活用し自立的に創造したりする姿が見られ余暇活動への発展が期待できた。また、鑑賞の学習を通じて、制作意図や頑張りを相手に伝える、友達の話を聞いて作品を見て感想を伝えるなど、社会生活でのコミュニケーションにつながる指導と生徒の成長が多く生まれ、学習単元の充実が図られた。</td></tr>
<tr><td>学校関係者の意見</td><td colspan="3">生徒の学びの向上を図るため、生徒の実態をよく捉えた教材作成や授業展開がなされている学んだことが、就労だけでなく余暇活動にも般化されるようになるとよい。余暇活動と就労継続は繋がっている。卒業後の職場を想定した、時と場合に応じた時間の使い方の学習や課題解決のための目標設定の仕方の学習も取り入れていってほしい。職場での意思疎通のためにもコミュニケーションの学習は大切である。</td></tr>
<tr><td>次年度へ向けての課題</td><td colspan="3">教材の系統性を含めて単元における使用場面や実態に応じた教材の在り方について話し合い、授業に取り入れることで、意欲的に授業に参加する姿が見られ、生徒の学びを深めることができたと考える。今後は、教科間の連携や学年間の単元の系統性についてさらに検証を進め、より生徒の実態にあった単元構成や単元における指導内容の検討をしていくことが必要である。また、卒業後の進路先での仕事や生活を見据えた、時間の使い方や挨拶など、今後も学習単元や活動内容の充実を図っていくことが望まれる。</td></tr>
</table>

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

令和５年度　となみ総合支援学校アクションプラン　－２－＜研修部＞		
重点項目	学習活動	
重点課題	主体的・対話的で深い学びの視点からの教科における授業づくりについて	
現　　状	学校課題研究では、主体的・対話的で深い学びの視点からの教科における授業づくりに取り組んでいる。 前年度は、学習指導要領の育成すべき資質・能力の３つの柱に沿った目標設定ができるよう研修を重ね、目標や内容を精選しながら授業づくりに取り組んだ。教師は、児童生徒が目標達成に向けて知識・技能を獲得していく姿やその過程の姿に注目できるようになり、児童生徒が考えたり選んだり伝えたりといった主体的・対話的な学びの姿により気付くことができた。今年度は、その児童生徒の学びの姿をさらに深め、日常生活に生かせる力につなげることができるように授業改善に取り組んでいきたい。「深い学びにつながるポイント」を整理し、それらを活用することで更なる授業力の向上を図ることになると考える。	
達成目標	授業研究を通じて得た「授業づくりのポイント」、「学びの姿図」、「深い学びにつながるポイント」を活用して授業を行い、自己の授業について肯定的な変容を感じた割合	
	８０％以上	
方　　策	・授業研究では、授業シートや事後研修シートを活用し、授業で見られた児童生徒の姿について出し合い、さらなる学びに向けた改善案を検討する。それを踏まえて、もう一度授業を行い、児童生徒の学びの姿、深い学びにつながる支援等について考察する。 ・外部講師を招いて授業研究会を実施し、授業や研修について助言を受ける。 ・研修の度に、感想や学びを記録し、自身の実践に生かすように意識付ける。 ・研修グループや各学部で授業改善の成果と課題について話し合い、まとめる。 ・研修期間の終わりに、アンケートを実施する。	
具体的な取組状況	・授業シート、事後研修シートや昨年度までの知見（「授業づくりのポイント」や「学びの姿図」）を共有し、『先生が学べば、子供が伸びる！』を合言葉に授業研究を進めた。 ・４～１２月：研究授業（月 １ 回）の前後に研修日を設け、授業づくり・授業改善に取り組んだ。毎回、学んだことや感想等を記録し、自身の実践に生かせるようにした。 ・授業づくりでは単元全体計画と本時の内容について、事後研修では児童生徒の授業中の学びの姿や学習内容が日常生活に生かせるか（深い学び）等について検討し、報告会等で全校で研修内容を共有した。 ・９月：富山大学の和田充紀准教授を招いて授業研究会を実施し、授業や研究について助言及び講義を受けた。 ・研修期間後に教員アンケートを実施した。その結果、研修や講義後の自己の授業について振り返り、授業者一人一人が、自身の授業力の向上を実感することができた。	
評　　価	A	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組み、その後のアンケートから、９３％の教員が自己の授業について肯定的な変容を感じた、との結果を得た。「想定する児童生徒の姿を描いて授業づくりができた」「児童生徒の学びの姿を捉えて授業改善ができた」「深い学び（日常生活に生かせる力を）を意識して授業づくり・授業改善ができた」との声が聞かれた。
学校関係者の意見	児童生徒の生活に生かせるように授業づくりをしている取組はよい。取組の中で、授業づくりにおける目標設定のポイントとして「生徒が自分の目標を意識する」とあり、社会に出てもそのように支援していきたい。	
次年度へ向けての課題	研修後のアンケートより、授業づくりにおいて「児童生徒の生活に根ざした学習活動を考える」「児童生徒が考える機会を作る言葉掛けをする」ことなどを学んだとの声が聞かれ、それぞれの教員の授業力が高まったと考える。教員個々の授業力の向上は、児童生徒の興味関心や知識をさらに深め、日常生活に生かせる力となっている。今後も、児童生徒の確かな学びとなる授業づくりについて研修を重ね、また、教員同士が情報を共有したり相談したりして、各教員の資質向上が図られるよう取り組み、子供たちの成長につなげていきたい。	

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）

令和５年度　となみ総合支援学校アクションプラン　－３－＜総務部＞		
重点項目	その他	
重点課題	児童生徒、保護者のニーズに応じたＰＴＡ活動の充実	
現　　状	本校のＰＴＡは、役員会と「総務、生活保健、地区、文化活動」の４つの委員会で組織されており、４つの委員会ではそれぞれに活動を企画・運営している。 令和３年度から、コロナ禍に対応して、生活保健委員会主催の「奉仕活動」と文化活動委員会・地区委員会合同主催の「親子活動」を同日に行う「ＰＴＡ学部別活動」を開催している。コロナ禍前とは違う形で活動を行ってきたが、保護者からは「良かった、楽しかった」などの声も聞かれている。また、対面で行うことにより、活動の隙間や活動後の保護者同士のコミュニケーションも活性化した。 今後も、対面の良さを生かしながら、児童生徒や保護者、教職員を含め、ＰＴＡ活動に参加した一人一人がやりがいや楽しさを感じられるようなＰＴＡ学部別活動を企画・運営したい。	
達成目標	ＰＴＡ学部別活動の充実	
	ＰＴＡ学部別活動に参加の児童生徒・保護者の満足度８０％以上（アンケートによる把握）	
方　　策	・保護者が参加しやすい時期・曜日等を検討し、開催日を決定する。 ・役員会等で、児童生徒が興味をもちやすく、親子で楽しく活動できる内容や参加の仕方を検討し、地域の人材や各種団体の中から講師を選定する。また、前年度の保護者アンケートを活かして企画・運営をする。 ・保護者が日程の調整をしやすいように、できるだけ早めに案内を出す。 ・当日の活動のイメージがもてるように、活動内容のイラストや分かりやすい説明、前年度参加者の「良かった、楽しかった」の声などを載せた案内チラシを作成し周知を図る。 ・実施後のアンケートにより参加者の満足度を調査する。 ・ＰＴＡ広報誌「あしたば」や学校 HP で活動の状況を公表し、参加できなかった会員も目に触れる機会を作る。	
具体的な取組状況	・昨年度の保護者アンケートを参考に、今年度の活動内容と希望の講師、開催日を決定した。その際、親子活動の活動内容は、児童生徒が興味をもって楽しく取り組めるもの、親子で一緒に取り組めるもの、車椅子の児童生徒も共に活動できるものとした。（４月役員会） ・保護者案内には、子供も大人も活動のイメージがもちやすいように、活動の写真やイラスト、車椅子の児童生徒も楽しめる内容であること、前年度参加者の感想などを載せた案内を作成し、配付した。（６・１０・１１月実施） ・実施後に「大変良かった・良かった・普通・あまり良くなかった・良くなかった」の選択と具体的な意見を記入できるアンケートを作成し、参加者の満足度、要望等を調査した。 ・実施後、ＰＴＡ広報誌「あしたば」や学校HPで活動の状況や保護者の感想を公表した。	
評　　価	A	・アンケート結果より「大変良かった・良かった」の肯定的評価の回答は、全体平均で８２％であった。 （奉仕活動は平均８１％（小：７３％、中：８３％、高：８６％） 親子活動は平均９２％（小：エアロビクス８２％、中：リズムダンス１００％、高：サッカー９３％） ビンゴゲームは平均７３％（小：５５％、中：９２％、高：７１％）） ・今年度は車椅子の児童生徒の参加があり、アンケートには「車椅子でも一緒に活動できる内容があることが分かった。」との回答があり、障害によらず誰もが楽しむことができる活動を工夫することができた。より充実した活動が行えた。
学校関係者の意見	活動実施後にアンケートをとって次に生かすようにしているのは良い。アンケートの「あまり良くなかった・良くなかった」の感想や意見にもしっかり注目し、取り入れていくと良い。	
次年度へ向けての課題	今後も、他のＰＴＡ活動についても、参加する児童生徒・保護者・教職員一人一人がやりがいと楽しさを感じられるように活動内容を充実させ、ＰＴＡ活動についてより多くの人に知ってもらうために、学校と保護者が協力していくことが必要であると考える。	

（評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった）